

基礎教育とジェンダーの平等

教育は人間の基本的な権利であり、個人および社会全体の発展と豊かな暮らしのために必要不可欠です。ユニセフは、男女の区別なく、全ての子どもたちに対し質の高い教育を提供すること、さらにジェンダーの平等とあらゆる種類の差別を撤廃することに重点を置いています。ユニセフは、地元のみならず国内外の協力団体とともに、教育とジェンダーの平等の目標を実現するために活動しています。

教育に関する基礎データ

- 2002年の統計によると、学校に通っていない子どもは1億1,500万人
- 世界では初等教育を受けられない子どものうち53%以上が女子
(つまり学校へ通っていない男子100人に対し、女子は115人が学校へ通えていない)
- 女子教育は次の世代が教育を受けられるようにするためにも重要である。開発途上国で初等教育を受けていない子どもの約75%は、その母親も学校に通っていなかった
- 1980年から開発途上国91カ国を含む125カ国で就学率が増加し、初等教育におけるジェンダーの平等が実現に向かう一方、これらの数字により、教育現場における未だ根強いジェンダーの不平等ときわめて低い就学率の事実があいまいになっている
- ミレニアム開発目標2「2015年までにすべての子どもが初等教育の全課程を修了できるようにする」を達成するには、次の10年間で、毎年平均1.3%ずつ就学率を増加させなければならない。特定の国々ではさらに急速な改善が求められている(ベニンでは毎年2.88%、エリトリアは4%以上、ネパールは2.25%、アフガニスタンは3.9%の改善が必要)
- 中東・北アフリカ、東アジア・太平洋諸国、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の大半の国で、就学率が継続して増加すれば、2015年までにミレニアム開発目標2の達成が可能となる
- 世界でおよそ7億8,100万人の成人は読み書きができず、うち64%が女性
- 学費を廃止した国では就学率が大幅に増加。2003年、ケニヤでは数週間で入学者が590万人から720万人に増加し、ウガンダ、タンザニア、マラウィでも同様に就学率が増加した

(2007年4月)